
オトナ・モドキ

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オトナ・モドキ

【Nコード】

N4810J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

大人になって、馬鹿になった。彼女をそう言う。

「大人になって、馬鹿になった。」

髪を掻きあげて自嘲する彼女から、つまらない香水の匂いがした。俺は焼いたプディングの甲羅をスプーンでひしゃげ、黒い犬の儘、それを口に運んだ。

自分に絶望するのは、この歳になると痛みも無く容易い。俺はファミレスの窓の外の虚空を見上げると、その喪失的な青さに血吐戸を付けたくなった。

「小学生が何を言っているの？」

血の代りに、声を吐く。彼女は前髪を抓んで、疲れてんの、と舌を出した。

「大学生は良いよね、毎日毎日暇で。何の為に生きているか、分かんなくなるでしょ？」

嫌味で狡猾でマセタ笑い方。台詞。なんでこの女は、無駄に女なんだろう。

「出会った頃は可愛かったなあ。野獣みたいで、尿でビームする素敵すぎる奴だった。」

「……赤ん坊だったんだから、仕方ないじゃない。」

いっちょ前に羞恥心はあるらしい。背を愚かに伸ばす話し方に気付く賢さは無いようだ。

「あの頃は、良かったなあ。可愛い……」

「お金。」

俺の郷愁話への入り口を折って、いきなり手を出す。この女は。

「金力ネかね、最近の餓鬼は可愛さが地獄的だな。」

「えゝ？一緒に買い物して、映画見て、ホテルに泊まってあげたのに！今時の女子小学生高いんだよ。」

声がやけに大きくて、俺は冷や汗をかいて周囲を見渡す。何人かの目があった。

「楽しくなかった？あたしと一緒に……。」

「いくらだ。」

財布を出して、女の口を止める。ピースして笑ってやがる。俺は、ATMじゃねえぞ？

「二千円？ぶーぶー。」

「馬鹿、俺の自給死ねるほど安いんだよ。」

豚女を目を下に、俺はリュックを持って立ち上がった。彼女は急いで、プディングを空にする。

会計を済ませ外に出ると、むっとした暑さが俺を包んだ。夏が近いのだ。

「じゃあね。」

「駅まで送らなくて良いか？」

ん、と首を上下して、早々と彼女は走り出した。羽が生えているみたいだ。

俺はその背中を見送って、嘆息する。

「大人になって、馬鹿になった。」

フザケタ言葉が、頭をつつく。馬鹿言うなよ、餓鬼が大人を下に見てるだけじゃねえか。

そう、思いたい。

まあ、たまに遊ぶと金を落としてくれる兄貴を持つと、そう思いたくなるんだろ？な。こんなに情けない、ただのATMだしな。

未来ある妹の言葉を、地面の空き缶に詰め込むと、俺は思い切り蹴りあげる。彼女より少し多く見た空の青が、俺をまた少しツマライ人間にした。

(後書き)

2004年執筆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4810j/>

オトナ・モドキ

2010年12月31日06時22分発行